

魚病対策の迅速化に向けた更なる対応

第8回魚病対策促進協議会でのご提言への対応状況

- 第8回魚病対策促進協議会でのご提言につき、以下のとおり対応を進めているところ。

ご提言	対応状況
遠隔診療の推進に向けた今後の方向性に関し、事務局案（優良事例の公表、魚類防疫員・獣医師への研修の実施、検体送付方法の提供）に対して、優良事例のみならず失敗事例の共有等も有益ではないか。	<ul style="list-style-type: none">ご指摘を踏まえ、現在作成中の養殖業者向けの「遠隔診療の手引き」において、都道府県魚病ブロック会議で出た意見を元に遠隔診療が困難な事例を含む幅広い事例を掲載することで準備中。
水産用医薬品の使用基準の見直しに関し、マイナー魚種（戦略的養殖品目以外の魚種）へ配慮を求める。	<ul style="list-style-type: none">DNAワクチン等承認受付に向けて局長通知の改正作業中。製薬メーカー等とのマッチングを希望する都道府県と各製薬メーカー等とのマッチング支援。魚種包括によるワクチン対象範囲の拡大に向けた、科学的知見の収集を開始。
獣医学生を獣医師向け研修の対象に含めて欲しい。	<ul style="list-style-type: none">水産分野に関心を有する獣医学生はこの先のリスト獣医師の有力候補であると認識。R4年12月10日に日本獣医生命科学大学において開催した獣医師向け診断実習に獣医学生4名が参加。今後も獣医師向け研修への獣医学生の参加について、研修実施先と調整しながら進めたい。
魚類防疫員・獣医師の人材育成などに取り組み、魚病対策の迅速化を進めてもらいたい。	<ul style="list-style-type: none">R4年度は、関係者の協力を得つつ、魚類防疫員向けの研修を11日間（のべ30人参加）、獣医師向け（獣医学生含む）研修を7日間（のべ44人参加）実施。令和5年度予算においても、さらにレベルアップをしていただくため、関係者の協力を得つつ、工夫を凝らし研修メニューを充実させる予定。